

富山子ども園 熱中症対策

原則、環境省・文部科学省・千葉県教育委員会のマニュアルまたはガイドラインに準ずる。

1 基本的な熱中症予防対策

- (1) 熱中症とその予防について、職員研修を行い、全職員が正しい知識を持ち、対応にあたる。
 - ①環境条件に応じた活動と水分補給
 - ②暑熱順化
 - ③個人差
 - ④服装
 - ⑤初期段階での対応
- (2) 予報の情報のみでなく、**実際の活動場所の暑さ指数（WBGT）を計測**し、活動の実施の有無や、活動内容を検討する。
- (3) 体調不良を躊躇せず訴えられる集団の雰囲気を作るよう配慮する。

2 実践的な予防措置

別表のとおり

3 発生時の対応

- (1) 応急処置
＜熱中症発生時の応急処置フロー図＞のとおり
- (2) 緊急時の体制
富山子ども園危機管理マニュアル 「2. 救急時の処置計画」のとおり

別 表

暑さ指数 (WBGT)	注意す べき活動 の目安	日常生活におけ る注意事項	熱中症予防運動指針	富山小・中・子ども園の具体的な対応(原則は左記のとおり)			
				業間・昼休み 保育中・預かり保育	体育・保体	部活動	その他
35 以上	熱中症特別警戒情報発表 いのちを守る行動を取る ★ 1						
33 以上	熱中症警戒情報発表 運動中止★ 2						
31 以上	すべての生活活動でおこる危険性	外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止★ 3 特別の場合以外は運動を中止する。特に幼児児童生徒の場合は中止すべき。	外遊び中止	運動中止 ・涼しい室内に移動し、運動する。 (★3「特別な場合」の条件を満たすとき) ・暑さ指数の低い場所に移動し、実際の活動場所の暑さ指数の予防運動指針に沿って活動する。 ・涼しい室内での保健分野・保健領域、ミーティング等に変更する。	屋外に長時間出る活動(各種行事・フィールドワーク等)は、中止する。	
28～31		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。	同左 *上記も参考		・活動場所に水筒を持参する。 ・降園・下校前に水分補給を行う。	
25～28	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険性が増すので積極的に休憩を取り適宜、水分、塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。	同左		・体調不良者が複数発生した場合は、活動休止。	
21～25	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	同左			

千葉県教育委員会「学校における熱中症対策ガイドライン」令和6年4月を参考に、本園・本校の対応を追記

- ★1 室内において、エアコン等の設置により、暑さ指数、33℃未満の状況を維持できる場合を除く。
校長・園長等の管理者は、全ての人が熱中症対策を徹底できているか確認し、徹底できていない場合は、運動、外出、イベント等の中止、延期、変更等を判断する。

- ★2 身近な場所での暑さ指数（WBGT）を確認し、涼しい場所以外では、運動等を中止する。
*熱中症特別警戒情報等の運用に関する指針（環境省大臣官房環境保健部）参照

- ★3 特別の場合とは
医師、看護師、一次救命救急保持者のいずれかを常駐させ、救護所の設置、および救急搬送体制の対策を講じた場合、涼しい室内で運動する場合等のこと。
 - 1 一次救命救急保持者
心肺蘇生法及びAEDの一次救命処置に係る救急救命の講習を受けており一次救命処置ができる、かつ熱中症の応急処置について理解しており、処置行動がとれる者。
※ 富山小・中学校、富山子ども園において、一次救命処置保持者とは、救急救命講習（心肺蘇生法・AED）及び熱中症対応の研修を受けた職員とする。
 - 2 救護所の設置
風通しのよい日陰や、できればエアコンの効いた室内等で、当事者が避難及び休憩できる場所を設置してあること。
 - 3 救急搬送体制
当事者の応急処置、救急車の要請等、有事の際の救急連絡体制が整っていること。
*熱中症警戒アラート（試行）の運用指針、日本スポーツ協会熱中症予防運動指針を参照

<熱中症発生時の応急処置フロー図>

① 観察(熱中症を疑う症状があるか?)

- ◇めまい、失神、四肢の筋や腹筋のけいれん、筋肉痛、筋肉の硬直
- ◇大量の発汗、全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛、顔面蒼白
- ◇足がもつれる、ふらつく、転倒する、突然座り込む、立ち上がれない、等
- ◇高体温

あり

② 観察(意識障害の有無を確認)

- ◇ここはどこ? 名前は? 今何をしてる? 等の質問に答えられない
- ◇意識がない(呼びかけに答えない)
- ◇応答が鈍い、言動がおかしい

応答あり

応答なし
応答が鈍い

救急車要請

- 涼しい場所へ避難する
- 衣服を緩める
- 体を冷やす



- 涼しい場所へ避難する
- 衣服を緩める
- 積極的に体を冷やし、迅速に体温を下げる
<冷却方法>
 - ・水をかけて体を濡らし、扇風機などで扇ぐ
 - ・氷で首の付け根、わきの下、脚の付け根など太い血管を冷やす他、アイスタオル法やアイスバス(※)を利用する

③ 観察

(自分で水分摂取できるか?)

できる

できない

- スポーツドリンクや食塩水を補給する(塩分・水分補給)

医療機関受診

④ 観察

(症状が改善したか?)

改善した

改善しない

- 安静にして、経過観察する
- 回復しても、当日の運動は控える

重要ポイント
症状があれば必ず誰かが付き添いましょう

※ 熱中症対策としてアイスバスを利用する場合には、専門的な知識や実施方法への理解を有する者が行うこと